

目野川の源流と流域を守る会

会 報

ひのがわ

15周年
拡大版

— 第29号 —

＝ 目 次 ＝

- 平成28年度 総会・講演会 2～3
- 森林整備体験交流会&植樹祭参加 4
- 日野川写真塾&境漁港水揚げ見学 5
- 日野川の自然環境と希少生物を守る体験 6
- 日吉津海岸クリーン作戦&日野川河口・海岸植物等学習会 7
- 平成28年度 森と水に親しむ活動を支援 8
- 日野川写真コンテスト入賞作品一覧 9～10
- 団体会員の紹介 11
- 幹事の部屋、今後の活動予定、会員募集 12

表紙写真：日野川源流

15周年記念 日野川の源流と流域を守る会

平成28年度 総会・講演会

平成28年2月24日(月) 場所:鳥取県西部総合事務所 講堂

鳥取県西部総合事務所講堂において平成28年度の日野川の源流と流域を守る会の総会・講演会を開催し、約130名の参加がありました。また、発足15周年を記念して日南町の「オッサンショウオ」、江府町の「パイロットマン」、米子市水道局の「パッキン★マン」を源流大使に任命しました。



▲左からパッキン★マン、豊島会長、パイロットマン、オッサンショウオ

平成28年度 活動の基本方針を決定(新規3方針を追加)

- 日野川の大切さを伝え、守り育てるという会の原点を大切に、その理念の輪を広げる。
- 森林・河川保全等のボランティア活動に積極的に参加する。
- 上流域と下流域の幅広い交流を活発にする。
- 日野川の将来を担う子ども達の積極的な育成を図る。【新規】
- 日野川流域のすばらしさを積極的に伝えていくとともに活動でメッセージを伝えていく。【新規】
- 連携を深め、より良い活動を行う。【新規】

平成27年度収支決算

1 収入の部

(単位:円)

区分	決算額	備考
繰越金	992,028	平成26年度より
会費	859,000	
県補助金	360,347	H26鳥取県民参加の森づくり推進事業
その他	191	預金利息等
計	2,211,566	

2 支出の部

(単位:円)

区分	決算額	備考
会議費	30,936	総会
事業費	1,152,866	イベント開催
助成金	171,296	2団体に助成
広報費	162,000	会報紙発行
事務費	228,235	郵送料、封筒作成費ほか
予備費	7,348	メガホン購入等
計	1,752,681	

平成28年度収支予算

今年度も、総会・講演会や森や川・自然を守る活動、歴史や文化・自然を学ぶ活動、自然や森林の大切さを伝える活動、日野川流域憲章記念事業、上下流の積極的な交流推進などの活動をします。

また、親子会員の開設、写真塾や写真展、記念植樹などを15周年記念として実施します。

1 収入の部

(単位:円)

区分	前年度予算額	本年度予算額	増(一)減	備考
繰越金	992,028	458,885	▲533,143	平成27年度より
会費	724,000	773,100	49,100	H27会費収入×90%
県補助金	2,392,374	1,600,000	▲792,374	H27河川整備基金助成事業、H27鳥取県森と海の交流体験プロジェクト事業
その他	598	598	0	預金利息等
計	4,109,000	2,832,583	▲1,276,417	

2 支出の部

(単位:円)

区分	前年度予算額	本年度予算額	増(一)減	備考
会議費	100,000	70,000	▲30,000	総会(講演会を含む)
事業費	2,050,000	1,400,000	▲650,000	イベント開催
助成金	240,000	750,000	510,000	5団体に助成(拡大)
広報費	200,000	330,000	130,000	会報(15周年拡大版)
事務費	210,000	210,000	0	郵券料、封筒作成、用紙代等
予備費	1,309,000	72,583	▲1,236,417	
計	4,109,000	2,832,583	▲1,276,417	

講演会

「日野川と里山と生態系の管理について」

総会のあと長年にわたって里山を研究されている鳥取大学農学部の大住教授を講師に迎え、「日野川と里山と生態系の管理について」と題して、私たちの身近な生活環境である里山と天然との違い、利用のされ方、現状やその維持管理について分かりやすく紹介いただき、今後のかかわり方を考えていきました。



講師 大住克博教授
(鳥取大学農学部生物支援環境学科)

概要

……里山林は天然林とは大きく異なっている……

里山林を代表する樹木にコナラがあるが、不思議なことに「原生林」と言われているような現存する天然林を探しても、コナラはほとんど見当たりません。いったいコナラはどのようにして里山林で増えてきたのでしょうか？

……里山のコナラ林は人の利用によって作られた……

里山は近世の農業拡大と共に大きく広がり、燃料や緑肥採取のために、短い間隔で繰り返し刈り取られてきた。そのような中で、コナラは高い萌芽能力と共に、きわめて若くても種子を生産する能力を持っていたために、他の樹種よりも有利に生き延びることができたと考えられ、コナラ林は人の持続的な利用が誘導してできたものである。

……利用が止まり里山のコナラ林は不安定化……

高度成長期に燃料は化石燃料に切り替わり、里山林は伐採されなくなった。そして放置され年をとると共に太くなっていった。この高齢化し太くなることで、萌芽力の低下やナラ枯れの大発生を引き起こし、里山林を不安定化させていると考えられる。

……安定的に里山林を維持するには管理も必要……

里山のコナラ林を安定的に維持する方法は、定期的に伐採して、昔のように若い林として管理すること、萌芽による再生を促すためには、小面積で皆伐を行うことが良いでしょう。

……まとめ……

- 伐採の労力、経費の負担をどうするかということが大きな問題。
- 伐採した木を薪などとして資源利用として組み合わせることも大きな可能性がある。
- コナラ林として維持することだけが里山保全の正解ではない。
- 地域で意見を出し合い、管理技術の有効性を確かめ合いながら、考えていくことが大事。

参加者の感想・意見

- 森林の変遷を知ることができ、里山林の機能等を学ぶことができ、非常に良かったと思う。
- コナラ林に着目した里山の生態系の管理について歴史を踏まえて、よく理解できる内容だった。
- 里山について、保全のあり方・大切さがよくわかった。中身の濃い話を持って帰って子供たちに伝えたい。
- 水田の広がる風景と同じように人間が関わることで、里山の樹木風景にも深く人間が関わっていたということを初めてお聞きできて、大変有意義でした。
- 里山とはどのように変化していったのかを理解はしました。また今後、地域にとっての里山をどのように保全していくのか考えさせられました。
- 町中に住んでいると山林を遠くから見るのが多く気づかないことばかりでしたが、今回の話を聞き、里山の大切さが少し感じられたように思います。
- 参加出来る範囲の地域で今日、話されていたような低林管理へ向けての活動があるといいと思いました。自然と里の間で人間が労働することで健全な里山が形成されていくということ自体に価値があるのでは、と思いました。
- 現実に日野川流域の村々がどのようになっているのか？また、問題は何か？等、現地の関係者から聞いた方がよいと思った。
- 何にしても、生活を豊かにするという事は、いろいろな面で管理が大切なのだと思います。

活動
レポート

森林整備体験交流会 & 植樹祭参加

H28.5.29 場所：日南町生山、宝谷



～上流の森林の大切さを知って守ろう！～

日南町生山で開催された県植樹祭式典に参加し、一般植樹を体験しました。午後からは昨年
に続いて日南町宝谷でスギ・ヒノキ林の間伐作業を体験しました。この日は午後から雨となっ
てしまいましたが、参加者の皆さんは間伐の必要性を大いに実感し、熟練者によるチェーンソー
での見事な間伐作業を見て感心していました。

また、ノコギリを使っての作業体験も、参加者には間伐作業の苦労を実感する良い体験に
なると喜ばれました。

日野川の清流を育む上流の森林に感謝し、皆で大切にしていきましょう。



エイエイオー



▲一般植樹に参加



▲ノコギリもなかなか難しい



▲プロの技に感心



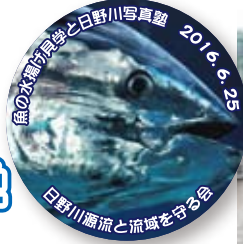
▲PRブースも設置しました

- 間伐体験がとてもおもしろかった。
- チェーンソーを使うのは大変難しかった、仕事されている方は大変。
- 間伐の必要性がよく分かった。
- 間伐のプロの技が見れて良かった。またノコギリの使い方も難しかった。
- 他の木にかからず切り倒すことの難しさがわかった。川や海を汚さないために、山を守るという
ことの意義を知る良い機会となった。



活動
レポート日野川写真塾&
境漁港水揚げ見学

H28.6.25 場所：境港市、日野川河口、旧日野橋付近



日野川の素晴らしさを伝えるメッセンジャーになろう！



日野川のすばらしさを広く発信するメッセンジャーを育成するために「日野川写真塾」を開催しました。併せて日本有数の漁港「境漁港」で水揚げ見学を行いました。

午前は、境漁港において境港水産振興協会のおさかなガイドによる漁港・水揚に関する説明を受け、水産物卸売市場の見学を行いました。マグロの水揚げ風景は見れなかったものの、水揚げされたマグロの競りの活気ある現場を見ることができました。

午後からは、日野川河口付近において写真塾を開催しました。サークルU所属の石丸なつ子さんを講師に迎え、自分の視点や想いを写真で伝えるための心構えなどを説明してもらいました。参加者も講師からアドバイスをもらいながら、熱心にカメラを構えていました。

今後も、写真を通して日野川の美しさや魅力にあらためて気づき、広く伝えていく方が増えるような活動を行っていきます。

- 初めての経験(水揚げ見学)で新鮮でした。
- 講師のアドバイスを聞きながら、色々なところをまわって良かった。
- 普段見ることのできないものが見れて、興味深かった。
- 写真について丁寧に教えてもらい、色々参考になることがあった。
- 生のマグロを間近で見れて良かった。
- 講師のアドバイスで色々な方向からの見方を学び、写真を撮るのが楽しくなった。

参加者の
声

日野川一斉清掃&生き物調べ

H28.7.3

日野川に感謝し、日野川のことを知ろう！ 場所：米子市古豊千

30名以上の参加申し込みをいただいていたのですが、悪天候（大雨・洪水注意報発令）のため中止となりました。



活動
レポート

日野川の自然環境と希少生物を守る体験



オオサンショウウオ生態調査で日野高校生徒が活躍！ H28.7.8

日野川支流の河川生物調査学習としてオオサンショウウオの生態調査を行いました。今年で3回目となります。NPO法人日本ハンザキ研究所 岡田純副理事長の指導の下、日野高等学校アグリライフコースの1年生19人が参加し、調査を通して美しい日野川を守り引き継いでいく意識を高めました。



▲オオサンショウウオが住む河川にどのような水生物がいるのかあわせて調べました。

▲今年は江府町の河川を調査しました。この日は4匹のオオサンショウウオが捕獲され、すべて新規個体でした。体重や体長等を計測後、追跡調査のためのマイクロチップが埋め込まれました。初めてオオサンショウウオを見た高校生がほとんどで、興味深そうに計測補助作業を行っていました。（注：オオサンショウウオは特別天然記念物ですので、許可がないと捕獲・移動できません。）

調査前に行った講義では、熱心な生徒からオオサンショウウオの生態について質問が出されていました。

江府町小学生とオオサンショウウオ観察と河川自然体験！ H28.8.1

江府町の小学生を対象として、日野川支流に生息するオオサンショウウオの観察と川の生き物調べを行いました。小学生との取り組みも今年で3回目です。

小学生達は生物多様性や日野川流域の現状を学び、体験を通して自然環境への関心を高めました。



◀NPO法人日本ハンザキ研究所の岡田純副理事長を講師に迎え、クイズを交えながらの楽しい講義となりました。オオサンショウウオや河川環境の状況とそれを守るために私達ができること等、オオサンショウウオが身近にいる地元の川の大切さについて教えていただきました。

小学生は興味津々！目を輝かせて話を聞いていました。



▲講義後、江府町内の河川でオオサンショウウオ3匹が見つかり、生態調査と観察を行いました。初めて見るオオサンショウウオに小学生達は大喜び！

